

# 多彩なキャリアを支援する制度の在り方 と医師確保の両立について

## 愛媛県・愛媛大学の取り組み現況



マドンナドクター

愛媛大学医学部附属病院  
地域医療支援センター 特命教授高田清式

# 現状 ～医師の年齢構成～

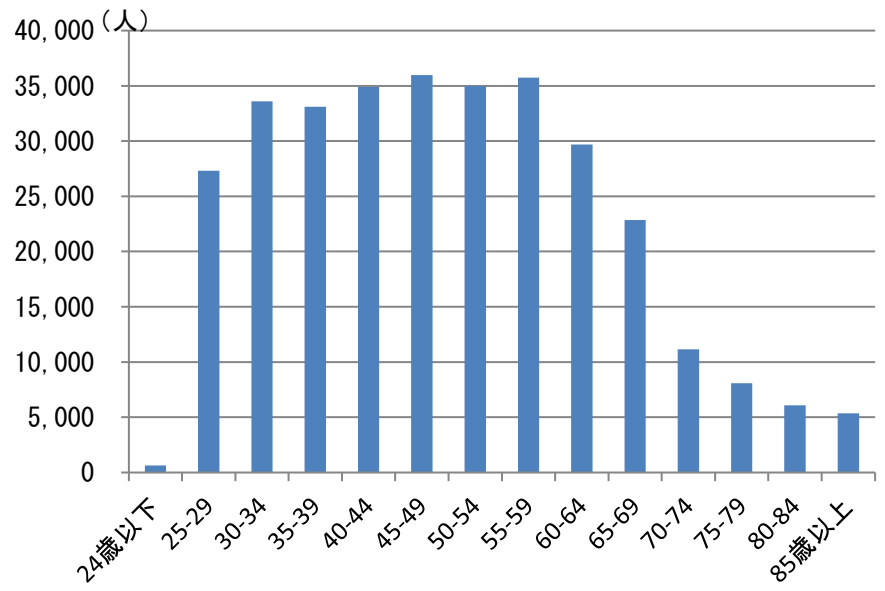
[H28.12.31時点] (出典:医師・歯科医師・薬剤師調査)

## 平均年齢（高齢化）ランキング

- 1位 53.2歳 **山口**
- 2位 53.0歳 **福島**
- 3位 52.7歳 **長崎**
- 4位 52.5歳 **岩手、新潟、鳥取、鹿児島**
- 8位 52.4歳 **徳島**
- 9位 52.3歳 **青森**
- 10位 52.2歳 **宮崎、熊本**
- 12位 52.1歳 愛媛**

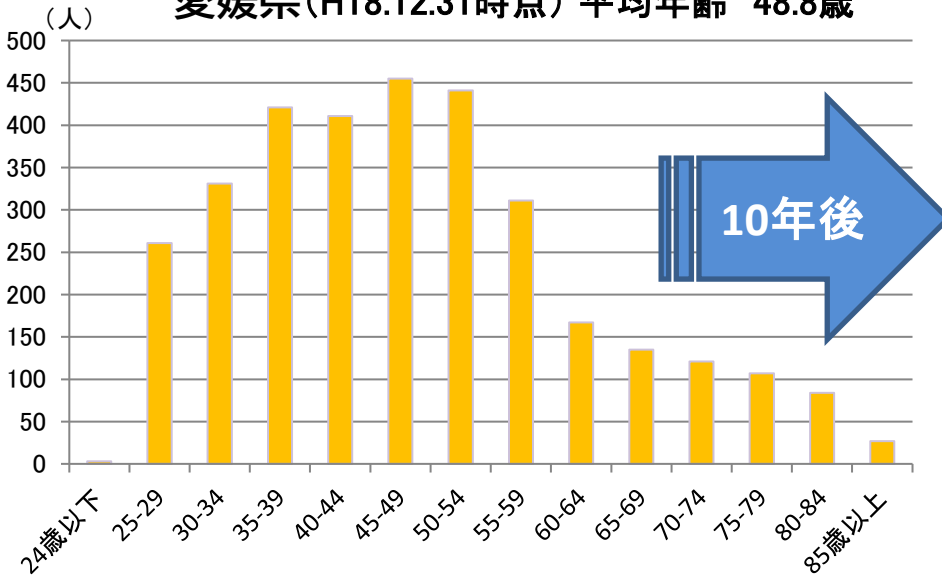
参考  
香川 51.7歳 19位  
高知 51.6歳 21位

全国 (H28. 12. 31時点) ※平均年齢50.0歳

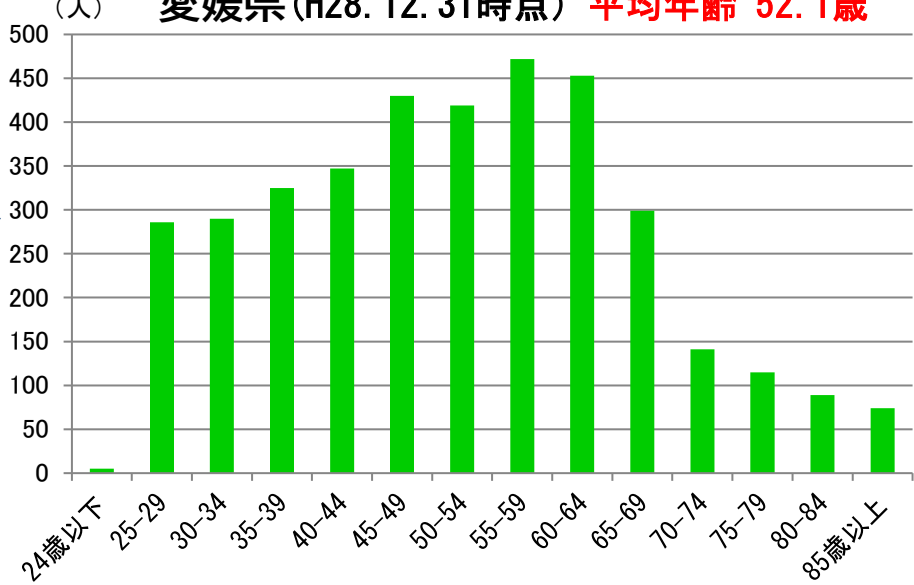


高齢化が進み若手医師の確保必要  
地域枠医師も若手医師確保の一対策

愛媛県 (H18.12.31時点) 平均年齢 48.8歳



愛媛県 (H28. 12. 31時点) 平均年齢 52.1歳



# 愛媛県医師確保奨学金について

- へき地医療医師確保奨学金  
平成19年度～貸与開始(累計4名)
  - 地域医療医師確保短期奨学金  
平成21年度～貸与開始(累計10名)
- 入学時からの奨学金貸与制度で、

## 地域医療医師確保奨学金（地域枠：入学～6年間/義務9年）

平成21年度～開始（入学定員10名）

毎年継続し、現在入学定員20名に増

令和4年度現在：累積248名、うち医師として123名が活躍

平成21年度より地域医療を担う人材の育成を目的として、愛媛県地域枠奨学制度による医学生（以下、地域枠医学生）が入学し、第一期卒業生は平成27年度から県内の病院での臨床研修を開始した。令和4年度は、第一期生は卒後8年目の医師として地域に貢献しつつある。さらに義務年限終了後も、県内での活躍を期待している。

# 専門医を志向する愛媛大学地域枠医学生 への地域医療教育のあり方

- 臨床研修（2年間）は、愛媛県内の臨床研修病院で実施。
- 臨床研修修了後の対象期間は、原則、愛媛県内の医療機関において就業。
- キャリア形成プログラムの各コースの就業先を設定する際には、**医師が不足している地域における医師の確保**と、**対象医師の能力の開発・向上**の両立というキャリア形成プログラムの目的が達成されるよう留意。
- 診療科別モデルコースの設置：**19領域**における可能な派遣先を設置。
- **専門医取得と義務履行の両立を目指す。**
- キャリア形成プログラムは、本県内の地域枠医師等が将来、医師として県内で地域医療に従事するに当たり、**卒後年数に応じたキャリア形成を図り、地域医療貢献期間満了後も本県の地域医療を支える担い手として定着し活躍できるよう、関係機関の協力のもと、育成を図ることを目的**としている

40年以上愛媛で活躍  
することを考えて

# 日本専門医機構の現在(専門医の取得について)

## Subspecialty 専門医

24領域(基本領域から分化)

消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・血液内科・内分泌代謝糖尿病内科、脳神経内科・腎臓内科・膠原病リウマチ内科・消化器外科・呼吸器外科・心臓血管外科・小児外科・乳腺外科・放射線診断・放射線治療・アレルギー・感染症・老年科・腫瘍内科・内分泌外科・肝臓内科・消化器内視鏡・内分泌代謝内科・糖尿病内科

連動研修など

内科 皮膚科 外科 産婦人科 耳鼻咽喉科 脳神経外科 麻酔科 小児科 精神科 整形外科 眼科 泌尿器科 放射線科 救急科 リハビリテーション科 形成外科 病理 臨床検査 総合診療科

19基本領域

カリキュラム研修  
(専門研修の1部等)

専門医プログラム研修  
(3~5年)

愛媛大学病院で全領域を取得・対応可能

初期臨床研修修了

義務年限中にキャリア形成として  
19基本領域のうち1つは取得する

# 義務対象配置先病院とキャリア形成

機能的区分		初期臨床研修 研修期間	後期研修期間 (専門医取得) * 1	地域医療貢献期間 * 2
		1~2年目	3~5年目	6~9年目
県中核 病院	全県的な機能を担 うと位置付けられた 病院 * 県がん診療連携拠 点病院・基幹災害拠 点病院など	愛媛大学医学部附 属病院のアイプログ ラムに限る【算入】	専門研修のうち 1年間に限り配置 可【算入】 ※令和5年3月 改定予定	配置しない
地域中 核病院	各医療圏で中心的 な機能を担うと位置 付けられた病院 * 地域がん診療連携 拠点病院・災害拠点 病院など	配置しない	配置可【算入】	配置可【算入】
地方拠 点病院	県中核拠点及び地域 中核病院以外の病院	配置しない	配置可【算入】	配置可【算入】
へき地 診療所	国保診療所等	配置しない	原則配置しない 【配置した場合は算入】	

\* 1: 後期研修期間: 専門的な臨床研修を指す(最大3年間取得可能)

キャリア形成期間(専門医プログラム履修期間)が3年を超える診療科においては、キャリア形成期間中のいずれかの年を後期研修期間とすることが可能

\* 2: 地域貢献期間の前半は地域中核病院、後半は地方拠点病院に配置が基本

機能的区分		対象医療機関
<b>県中核病院</b>	<b>全県的な機能</b> を担うと位置付けられた病院 ＊県がん診療連携拠点病院・基幹災害拠点病院など	<b>【5病院】</b> 愛媛大学医学部附属病院、県立中央病院、四国がんセンター、愛媛医療センター、松山赤十字病院
<b>地域中核病院</b>	<b>各医療圏で中心的な機能</b> を担うと位置付けられた病院 ＊地域がん診療連携拠点病院・災害拠点病院など	<b>【7病院】</b> 四国中央病院、県立新居浜病院、住友別子病院、県立今治病院、済生会今治病院、市立八幡浜病院、市立宇和島病院
<b>地方拠点病院</b>	県中核拠点及び地域中核病院以外の病院	<b>【22病院】</b> HITO病院、愛媛労災病院、十全総合病院、 <u>十全ユリノキ病院</u> 、西条市立周桑病院、済生会西条病院、西条中央病院、 <u>正光会今治病院</u> 、 <u>心と体の健康センター</u> 、久万高原町立病院、市立大洲病院、喜多医師会病院、平成病院、西予市立野村病院、西予市立西予市民病院、宇和島市立吉田病院、宇和島市立津島病院、 <u>正光会宇和島病院</u> 、JCHO宇和島病院、鬼北町立北宇和病院、県立南宇和病院、国保一本松病院 ※下線は精神科専門病院

地域貢献期間の**前半は地域中核病院**、**後半は地方拠点病院**に配置が基本

# 配置の考え方

## 基本方針

- 専門医取得（見込み）の地域枠医師全てに適用
- 配置先は、19専門医基本領域単位で検討
- 愛媛県保健医療対策協議会に諮った上で、知事が決定
- 配置先医療機関では、全科対応や救急対応も行う
- 医師の地域偏在の解消を目的
- 地域（市町）および配置先医療機関のニーズを優先
- 配置要望は市町が県に提出
- 配置先医療機関は、受入れに必要な設備や体制を整備
- 配置を受けた市町は、生活費に係る奨学金相当分を負担

## 考慮する要素および優先順位

- ① 医師が不足する圏域を優先・・・客観的データ
  - 6圏域別に診療科の人口10万人当たり医療施設従事医師数
  - 厚労省の【医師偏在指標】
- ② 医師が不足する病院を優先・・・現病院医師のデータ
  - 現員医師数（常勤換算及び年齢・性別補正）と必要医師数比較
- ③ 地域及び指定医療機関のニーズを考慮・・・要望を毎年提出
  - 指定医療機関に配置要望調査を毎年実施
  - 市町の意見を踏まえたうえで診療科毎の配置要望把握



# 配置先決定のプロセス

県医療対策課/地域医療支援センター

## 手順①

### 指定医療機関の配置要望調査

- ・診療科ごとに配置医師希望調査
- ・市町が意見を付して要望

## 手順④

全体の配置に隔たりがないか検証  
したうえで配置決定  
隔たりがあれば調整

地域医療支援センター運営委員会

- ・医師確保部会／医師確保支援WG
- ・保健医療対策協議会

## 手順②

### 配置する圏域選定

- ・人口10万人当たりの診療科別医療施設従事医師数から少ない圏域  
\*小児科0-14歳/産婦科15-49歳の推計人口から設定
- ・医師偏在指数を加味

## 手順③

### 面談

### 配置する病院(診療科)を選定

- ・市町の要望に配慮
- ・地域枠医師の希望を踏まえる
- ・医師が不足する病院を優先

# 地域枠医師の流れ図

愛媛大卒/自治医科大卒ともまず**臨床能力をつけつつ(キャリアアップ)、地域に貢献する**

初期研修2年

→ 専門研修3～5年

→ 地域貢献2～4年

愛媛大卒  
アイプログラム

愛媛大卒  
愛大専門医プログラム  
他病院のプログラムも選択可

自治医大卒  
県中病院

自治医大卒  
県中病院専門医プログラム  
(内科/整形外科/産婦人科/救急/  
総合診療科の専門医)  
他の診療科も選択可能  
愛大プログラムも選択可

地域

貢献

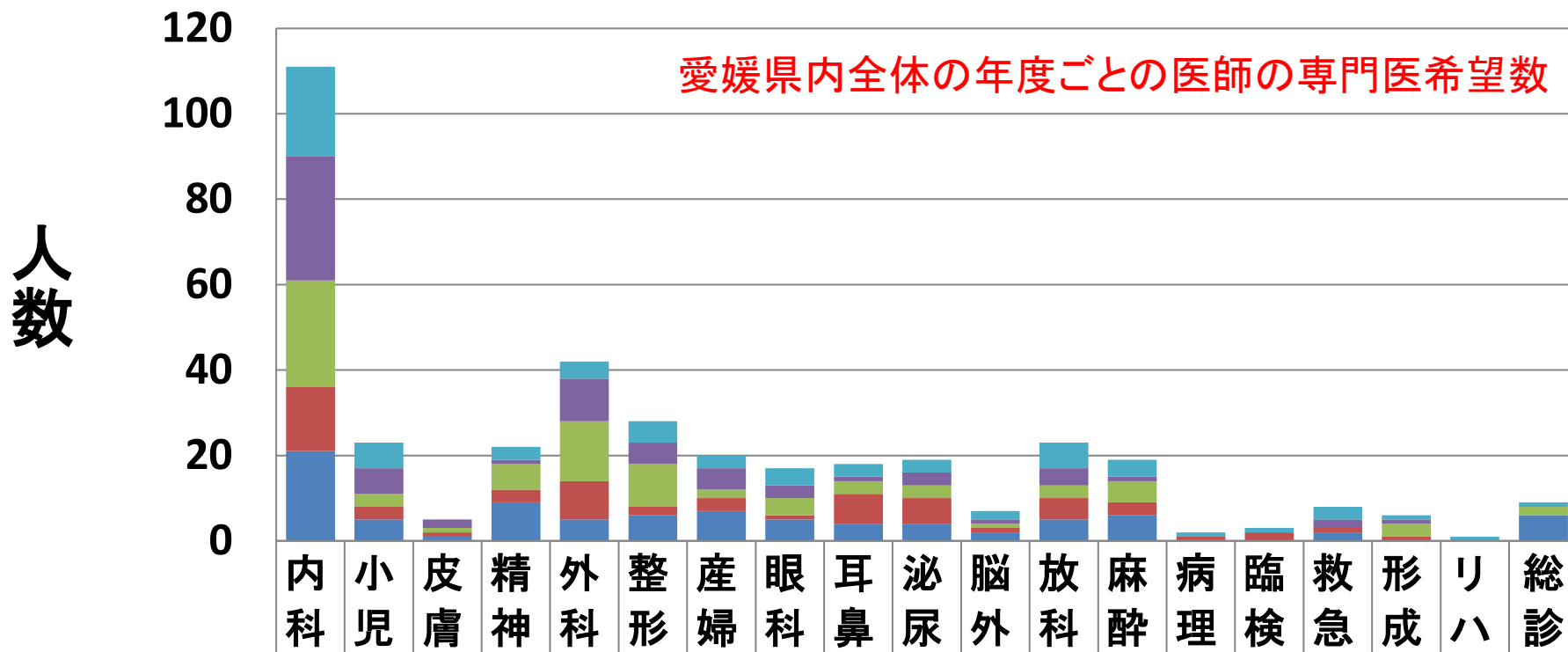
- 地域や中核の病院
- 大学病院(含研究)
- 国内外留学
- 開業し貢献(将来)
- 行政
- 教育職
- 療養施設など

**長い医師人生、まず臨床力も磨いて欲しい、より良い医療を提供して地域貢献**  
キャリアアップに努めて、地域でも最先端の医療を提供する

義務年限の中断(例:休職、育児、県内外研修など)は可能な範囲で、ルールで規定

# 愛媛県内専攻医

## 診療科別2018-2022年度採用数

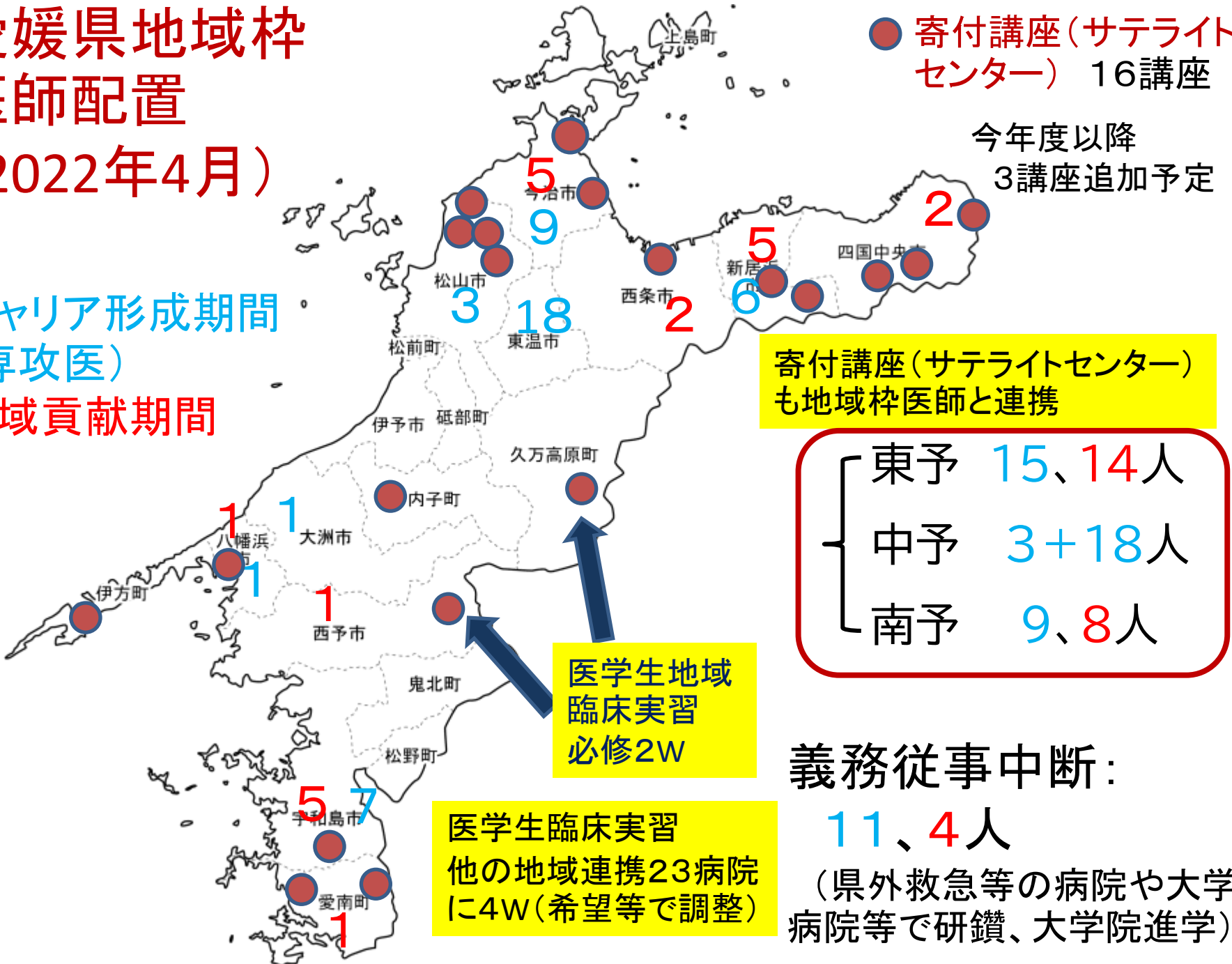


	内科	小児	皮膚	精神	外科	整形	産婦	眼科	耳鼻	泌尿	脳外	放科	麻酔	病理	臨検	救急	形成	リハ	総診
2022採用72	21	6	0	3	4	5	3	4	3	3	2	6	4	1	1	3	1	1	1
2021採用74	29	6	2	1	10	5	5	3	1	3	1	4	1	0	0	2	1	0	0
2020採用85	25	3	1	6	14	10	2	4	3	3	1	3	5	0	0	0	3	0	2
2019採用65	15	3	1	3	9	2	3	1	7	6	1	5	3	1	2	1	1	0	0
2018採用88	21	5	1	9	5	6	7	5	4	4	2	5	6	0	0	2	0	0	6



# 愛媛県地域枠 医師配置 (2022年4月)

キャリア形成期間  
(専攻医)  
地域貢献期間



義務従事中断:  
11、4人  
(県外救急等の病院や大学  
病院等で研鑽、大学院進学)

# 地域枠奨学生医師のキャリアアップのまとめ

- 専門医とは各々の診療領域における適切な教育により、十分な知識・経験を持ち、患者から信頼される標準的な医療を提供できる医師である。
- 愛媛県の奨学金は、専門医としての医療技術の習得（知識・技術・態度）に努めながら、地域貢献（義務履行）を行う制度である。
- 現在123名が医師として活躍しつつある。
- 義務履行後のさらなる活躍・発展を期待している。
- キャリア形成を図りつつ、配置決定プロセスに沿って、地域の病院で地域貢献を行う。
- 医師年齢の若返りを期待している。